

時	○学習内容【評価方法】	具体的評価規準
1	○リコーダーで「聖者の行進」の旋律奏に取り組む。 ○ディキシーランドスタイルの演奏を鑑賞し、音楽のもつ特徴について学習する。【ワークシート】 ○リズムアンサンブルでスウィングの基本パターンを演奏する。【観察】	・スウィングのリズムに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。関① ・スウィングのリズムの特徴を知覚し、あわせてジャズの文化的背景について理解しながら鑑賞している。鑑①
2	○諸外国の音楽を鑑賞し、リズムの特徴について理解する。【ワークシート】 ○鑑賞したリズムをアンサンブルで演奏する。【観察】	・それぞれのリズムのもつ音楽的特徴を、スウィングと対照させて鑑賞している。鑑② ・それぞれの音楽がもつリズムの特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。関②
3	○「聖者の行進」の旋律を任意のリズムと組み合わせるグループで演奏し、旋律の変奏を工夫する。【演奏】 ○相互鑑賞し他グループの演奏を参考に表現を深化させる。【ワークシート】	・アンサンブル活動を通じて、個々のリズムがもつ特徴を生かし意図をもって演奏を工夫している。創① ・他のグループの演奏から、音楽の構造におけるそれぞれのパートが果たす役割に着目し、主体的に取り組もうとしている。関③
4	○演奏を発表する。【演奏】	・旋律をリズム変奏したり、装飾的な楽句を挿入するなど、合奏を創造的に構成しようとしている。技①

イ 評価の実際

(ア) 考え方

この題材の場合、具体的評価規準を合計7つ設定しており、ワークシートや観察、演奏などの取組状況を、「A」、「B」、「C」の3段階で評価する。これをもとに、最終的に題材の学習状況について総括し、4つの観点についてまとめる。

(イ) 評価方法の具体例

ここでは、第3時の「音楽表現の創意工夫」創①及び「音楽への関心・意欲・態度」関③の評価例について取り上げる。

第3時では、第1時で学習した「聖者の行進」の旋律を、前時までに学習したいくつかのリズム・パターンと組合せて演奏し、合奏としてよりよい表現となるよう旋律を変奏することが主な学習活動である。例えば、元の旋律（譜例1）を、スウィングのリズム・パターン（譜例2）と合奏する場合、リズム変奏すると譜例3、リズムの雰囲気に合わせて装飾的な楽句を挿入すると譜例4のような演奏が想定される。

The diagram illustrates the process of creative music-making. On the left, two musical examples are shown: <譜例1> (Example 1) is a simple melody in treble clef with a 4/4 time signature, and <譜例2> (Example 2) is a rhythmic pattern in bass clef with a 4/4 time signature. On the right, two more examples are shown: <譜例3> (Example 3) shows the melody from Example 1 adapted to a swing rhythm (indicated by a 7/8 time signature), and <譜例4> (Example 4) shows the melody from Example 1 with a decorative phrase inserted. Arrows labeled 'リズム変奏' (Rhythm variation) and '楽句を挿入' (Insert decorative phrase) point from the left examples to the right examples.

このように、イメージをもとに具体的に表現を工夫することができた場合、「音楽表現の創意工夫」**創①**については、「おおむね満足できる」状況（B）と判断し、さらに複数の箇所では表現の工夫が見受けられ、選択したリズムとの関わりに留意しながら演奏全体の統一感や技能について総合的に優れている演奏をした場合、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。また、リズム・パターンと旋律で合奏はしているが、特に工夫が見られない場合は「努力を要する」状況（C）と判断するが、具体的な支援の手立てとして、用いるリズム・パターンを変更してみる、テンポを変化させてみる等の助言が考えられる。

さらに、第3時では他グループの演奏を相互鑑賞し、自グループの演奏についての表現を深めさせる場面を設定している。その際に、着目する要素を明らかにしてワークシートに記入させる等の方法により、具体的な気付きをもとに演奏を振り返ることができた場合、「音楽への感心・意欲・態度」**関③**については「B」と判断する。さらに、ワークシートの内容に基づいて具体的に演奏を深め変化させることができた場合は「A」と判断する。

また、ワークシートに具体的な要素を記載することができない場合は「C」と判断するが、具体的な支援の手立てとして、演奏しているリズム・パターンの楽譜に注目させ、旋律をどのように変奏しているのかに気付かせる等の助言が考えられる。

● 特に工夫されていたと思うグループ： _____

● 工夫されているところ（楽譜に書いてもよい）



● 自分たちの演奏の参考になるポイント



(ウ) 総括

最後に、この題材における生徒の学習状況の観点別評価の総括について述べる。

「音楽への関心・意欲・態度」については、題材中に3つの評価規準を設定しているため、その評価結果の平均をこの題材の総括とする。「音楽表現の創意工夫」及び「音楽表現の技能」については、評価規準がそれぞれ1つであるため、それぞれの評価を総括として用いる。

「鑑賞の能力」については、評価規準を2つ設定しているため、判断が異なった際は、評価規準を文化的背景との関わりとあわせ学習するという内容としていることから、鑑賞**①**を鑑賞**②**よりも重視し、次のように総括する。

なお、2つの評価規準の評価結果が異なった際の総括方法として、授業展開の時系列においてより後の評価を学習の成果の現れと捉え、重視する方法もある。いずれの方法を用いる際も、事前に具体的な判定方法について決定しておき、計画的に総括を行うことが重要である。

表：題材の総括の例

番号	氏名	音楽への 関心・意欲・態度				音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能	鑑賞の能力		
		関①	関②	関③	総括	総括	総括	鑑①	鑑②	総括
1	あ	A	B	C	B	A	A	A	B	A
2	い	A	A	B	A	A	B	B	A	B
3	う	B	C	C	C	B	B	C	B	C
4	え	C	B	A	B	B	A	B	C	B

3 美術・工芸

(1) 美術・工芸科の指導と評価を円滑に行う年間指導計画の作成

教科名		芸術 I	科目名	美術 I			
年間指導目標		1 作品制作を通して多様な材料や素材に触れる中で、感性を高め、創意・工夫する姿勢を育てる。 2 鑑賞活動を通して互いの作品を批評し合うことなどで、美術文化を理解し美術への愛好心を育てる。					
月	題材名(時間) 【目標】	学習内容・指導内容	評価の観点と評価規準				評価の方法
			美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
4	オリエンテーション (2) 【年間の学習内容を知り、主体的に学習に取り組もうとする】	・学習の進め方、学習内容、評価の方法について理解する。	・学習の内容や進め方、心構えについて理解する。 ・学習の内容等に興味、関心をもつ。				ワークシート
5	A表現 (1) 絵画・彫刻 鉛筆素描 「石膏像をかく」 (7) 【鉛筆の特性を理解し、構図や技法などを工夫しながら、造形的な効果を生かし創造的に表現する】	・鉛筆の基礎的な使用方法や技法と効果について理解する。 ・石膏像の明暗や量感のとらえ方、効果的な構図について理解し表現する。	・鉛筆の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら表現しようとしている。	・主題を効果的に表現するために、鉛筆の特性を生かし、構図などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	・技法や材料の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 ・意図に応じて、より効果的な表現方法を選択、活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。		ワークシート 作品 観察
6	B鑑賞 合評会① (1) 【互いの作品を鑑賞し、批評し合う中で、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう】	・互いの作品を批評し合うことで、表現の工夫や作品のよさや美しさを感じ取る。	・作品のよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、感想や意見を述べようとしている。			・他の生徒の作品などのよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。	感想、意見 ワークシート
7	A表現 (1) 絵画・彫刻 静物画 「桌上的果物」 (13) 【絵の具の特性を理解し、構図や技法、色彩などを工夫しながら、造形的な効果を生かし創造的に表現する】 B鑑賞 合評会② (1) 【互いの作品を鑑賞し、批評し合う中で、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう】	・絵の具や用具の基礎的な使用方法について理解する。 ・静物画の効果的な構図やアクリル絵具の技法について理解する。 ・自分の作品について解説する。 ・相互に作品を批評し合う。	・アクリル絵具の特性や効果を主体的に生かし、創意工夫しながら表現しようとしている。 ・作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、感想や意見を述べようとしている。	・主題を効果的に表現するために表現材料の特性を生かし、構図、色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	・技法や材料の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 ・表現したい意図を大切に、より効果的な表現方法を選択、活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。	・作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、作品の見方や感じ方、考え方などをもち理解している。	作品 ワークシート 観察 感想、意見 ワークシート
	8 9	A表現 (2) デザイン 「案内表示 (サイン) をつくる」 (10) 【案内表示をデザインすることで、目的や使う人の気持ちを考えた情報伝達としての表現を学び、デザインが生活の中に果たす役割についての理解を深める】 B鑑賞 合評会③ (1) 【互いの作品を鑑賞し、批評し合う中で、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう】	・案内表示 (サイン) の機能、特性について理解する。 ・目的や設置場所に即した効果的な案内表示 (サイン) をデザインし制作する。 ・自分の作品について解説するとともに、互いの作品を批評し合う。	・目的、機能、美しさなどを考えて表現することに関心を持ち、主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形要素の働きを考えながら創意工夫して構想を練ろうとしている。 ・作品のよさや美しさ、意図と表現の工夫などを感じ取り、感想や意見を述べようとしている。	・デザインの目的や条件、機能や用途と、造形的な美しさとの調和を考え、主題を生成している。 ・主題を基に、表現形式の特性と形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練っている。	・技法や用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 ・効果的な表現方法を創意工夫し、目的や意図に基づいて、計画や手順を吟味し、制作の見通しをもって表現している。	・デザインの特質や効果的な表現方法を感じ取り、生活や社会の中でデザインがもつ働きを理解している。

(2) 観点別学習状況の観点別の総括

ア 題材の評価計画の例

題材名	A表現 (2) デザイン 「案内表示 (サイン) をつくる」	10時間設定
題材の目標	・案内表示をデザインすることで、目的や使う人の気持ちを考えた情報伝達としての表現を学び、デザインが生活の中に果たす役割についての理解を深める。	

学習指導要領の 指導事項	A表現 (2)デザイン 目的、機能、美しさなどを考えて主題を生成すること。 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練ること。 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現すること。 B鑑賞 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。	
題材の評価規準	年間指導計画を参照	
時	学習内容【評価方法】	具体的評価規準
1	・身近なデザインやサインを鑑賞することで生活の中の美術について学習し、生活や社会に果たすデザインの役割を理解する。【ワークシート】	関① 生活の中にあるデザインについて理解しようとする。 鑑① デザインがもつ公共性や伝達性や美しさを味わうことができる。
2 3	・校内に必要な表示や標識を調べるとともに、伝達目的や機能を考え「案内表示」の主題を生成する。【制作の様子】 ・色彩や形、構成を生かし、視認性や伝達性の効果を考え、デザインの構想を練る。【アイディアスケッチワークシート】	発① 目的や条件をを考えて、主題や構想を練ることができる。 関② 形や色彩を使って相手に伝えるための効果を考え、表現しようとする。
4 9	・「案内表示」というテーマを基に、伝達性や機能性に関心を持ち、主体的に主題を追求して表現する。【制作の様子】 ・技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら表現する。【制作途中の作品】	創① 目的や意図に応じた表現方法を工夫して、主題を追求している。 創② 視覚伝達を目的とした形体、色彩、構成などを工夫して主体的に表現しようとしている。
10	・自分の作品について説明を記述し、相互に作品を鑑賞しながら批評し合う。 ・他の生徒の作品のよさや美しさや、表現の意図や工夫等をワークシートにまとめる。【ワークシート】	関③ 他の作品のよさや美しさ、意図と表現の工夫などに関心を持ち、作品などについて理解しようとしている。 鑑② 作品を発表し合い、互いの作品のよさや美しさを味わうことができる。

※表の中の表記は以下のとおりである。

「関」は「美術への関心、意欲、態度」、「発」は「発想や構想の能力」、「創」は「創造的な技能」、「鑑」は「鑑賞の能力」を示している。

【 】は、評価方法・資料を示す。

イ 評価の実際

(ア) 考え方

この題材の場合、具体的評価規準を合計8つ設定しており、ワークシートや制作の様子、作品などを基に、「A」、「B」、「C」の3段階で評価する。これをもとに、最終的に単元の学習状況について総括し、4つの観点についてまとめる。

(イ) 評価方法の具体例

ここでは、第2～3時の「アイディアスケッチ」をする際の「発想や構想の能力」**発①**の評価例について取り上げる。

第2時では、身のまわりにある標識や公共施設等の表示板等を鑑賞しデザインがもつ公共性や伝達性を学んでいる。このことを基にして、学校内に「案内表示」を作成するためのアイディアスケッチをし、構想を練る。その際、「ワークシート」等を活用し、「目的や条件を踏まえて構想しているか」を判断することが必要である。右の「ワークシート」の記載事項で、案内表示を作成するための目的や必要な伝達情報を踏まえて構想を練ることができている場合

の評価は、「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。さらにBの中で、目的等がデザイン案に十分反映され、表示の必要性や設置時の留意点等を考慮しながら構想している場合は「十分満足できる」状況（A）と判断する。デザインする目的や伝達情報が曖昧であったり、それらがデザイン案に十分に反映されていない場合は、「努

《アイディアスケッチのワークシート例》

「案内表示」のデザインを考えよう		
年 組 番 氏 名 _____		
1 学校内で表示や案内が必要な場所を書き出しましょう。		
必要な表示	場所	必要な理由（現在の問題点）
2 上の「必要な表示」の中から1つ選択し、案内表示を作成するために必要な事項をまとめ、標識のデザイン案を作成しましょう。		
表示の設置場所		案内標識の目的・必要な情報
表示デザインの案		
3 表現の構想		
・表現方法： ・材料・用具： ・設置の方法：		

力を要する」状況（C）と判断し、表示作成の目的や情報を整理させたり、デザインの手順やその方法を助言したりするなどの具体的な支援や手立てが必要である。

(ウ) 総括

最後に、この題材における生徒の学習状況を観点別に総括する。

1つの観点に複数の評価規準を設けた場合は、これを平均化して総括することができる。その際、複数ある評価規準の中で、ある評価項目を重点化したり、「創造的な技能」のように、時間の経過とともに「高まり」が見られるものは最終段階の評価を重く見るなどの方法も考えられる。

総括に当たっては、あらかじめ評価に関わる具体的な判断方法を十分に考慮して設定し、計画的に総括することが重要である。

《題材の総括の例》

番号	氏名	美術への関心・意欲・態度			知覚や構想の能力		創造的な技能			鑑賞の能力			
		関①	関②	関③	総括	総括	創①	創②	総括	鑑①	鑑②	総括	
1	い	A	B	A	A	B	B	A	A	A	B	B	B
2	ろ	B	A	B	B	B	B	B	C	C	A	A	A
3	は	B	C	C	C	C	C	B	A	A	C	B	B
4	に	C	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B
...

4 書道

(1) 書道科の指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

教科名		芸術 I	科目名	書道 I				
年間指導目標		書の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
期	月	単元(時間) 【目標】	学習内容・指導内容	評価の観点と規準			評価の方法	
				書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能		鑑賞の能力
前 期	4	オリエンテーション (2) 【年間の学習内容を知る】 ・書の領域 ・古典臨書の意義 ・文房四宝について	・書写と書道の関連・相違点について知る。 ・身のまわりの書について関心をもつ。 ・古典臨書の意義、書の用具・用材について知り、書道学習の意義と方法について知る。	・さまざまな書や書表現に関心をもち、今後の書道の学習に対し関心・意欲をもって取り組もうとしている。			・書が日常の中で果たしている役割を知り、書の効用を理解している。 ・実際の用具・用材に触れ体感することで、書の高さや美しさを味わっている。	ワークシート 観察
	5	漢字仮名交じりの学習① (4) 【毛筆の基本的な筆使いを確認するとともに、毛筆による多様な表現の可能性を認識する】	・用筆・運筆の違いによって様々な表現が生まれることを理解する。 ・基本的な筆使いを確認し、毛筆の特徴と機能について理解する。	・自選した言葉表現しようとする姿勢をもって取り組もうとしている。	・用筆、運筆の違いによって、線質や表現が変化することを理解し、表現の工夫をしている。	・表現の目的と用途を理解し、効果的な表現の技能を身に付け表している。	・書が生活の中で果たしている役割を知り、書の効用を理解している。	ワークシート 作品 観察
	6	漢字の書の学習① (14) (楷書の学習) 【多様な書風があることを理解し、その技法を習得することで、普遍性のある表現力を養う】 【厳正と温雅な書を比較学習し、その表現を理解する】 ・九成宮醜堂銘 ・孔子廟堂碑 【厚重と軽快な書を比較学習し、その表現を理解する】 ・顔氏家廟碑	・古典の臨書を通じ毛筆による多彩な表現を理解する。 ・異なる特徴をもつ古典を比較し鑑賞することで、文字造形や線質の違いを感じ取り、表現する。 ・基本的な点画や線質の書き表し方を通じ用筆・運筆と表現の関係を理解する。 ・毛筆の特性である弾力を理解し、筆の開閉、線の太細などを用いて表現する。	・臨書の意義や古典学習の方法を理解し、臨書学習を通じて多くの表現技法を高めようとしている。	・それぞれの古典の特徴を構成する諸要素をとらえて、表現の工夫をしている。	・楷書の基本的な用筆を習得している。 ・向勢・背勢、方勢・円勢を理解しそれぞれの違いを表現する技能を身に付け表している。 ・歐法、虞法、顔法、褚法、などを理解し表現する技能を身に付け表している。	・それぞれの古典の特徴を構成する線質や、文字結体などの要素をとらえ、その違いによる書の高さや美しさを味わっている。	ワークシート 作品 観察
7								

	<ul style="list-style-type: none"> 雁塔聖教序 【方勢と円勢の趣を比較学習し表現を理解する】 牛欄造像記 鄭義下碑 						
8	漢字の書の学習② (8) (篆書・篆刻の学習) 【漢字の原初的書体を書くことから書体の変遷を理解し、書における篆刻作品の意義を知り、自用印を作成する】	<ul style="list-style-type: none"> 泰山刻石の臨書を通じ篆書の基礎的な字形や用筆法を理解する。 篆書体の特徴を捉え姓名印の制作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書体の変遷に関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。 篆刻について意欲的に理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 篆書の特徴をとらえて、表現の工夫をしている。 篆書体の特徴をとらえ、印にまとめる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 篆書の基本的な筆使いと文字結体を理解し表現する技能を身に付け表している。 篆刻の用具・用材とその扱いを知り、姓名印を制作する技能を身に付け表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 楷書とは違った文字結体を理解している。 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。 	ワークシート 作品 観察
9	漢字の書の学習③ (8) (行書の学習) 【行書の特徴を理解し、筆脈を意識した行書の筆使いができるとともに、筆者の感興が表現に関わることを理解し、表現する】 【基本的な行書の特徴を捉え、流麗な表現ができる】 ・蘭亭序 【多様な行書表現があることを理解する】 ・争坐位稿	<ul style="list-style-type: none"> 行書特有の筆脈を意識した毛筆の使い方を理解する。 筆者の心の動きや個性が書に反映されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行書体の生まれた時代背景や、行書の特徴である筆脈について関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。 筆者の感興と筆の動きの関わりや、多様な行書表現があることに関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行書の基本的な用筆法を理解し、表現を工夫している。 毛筆の弾力など、用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴である流れのある筆使いの中で点画が構成されることを理解し、表現する技能を身に付け表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典の普遍的な価値を理解し、そのよさ美しさを理解している。 	ワークシート 作品 観察

(2) 観点別学習状況の観点別の総括

ア 評価計画の例

単 元 名	漢字の書 「九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の特徴を学習しよう」(書道Ⅰ)	全8時間
単 元 の 目 標	ア 古典の臨書を通じ、毛筆による多彩な表現を理解する。 イ 異なる特徴をもつ古典を詳しく鑑賞することで、文字造形や線質の違いを感じ取り表現する。	
教 材	ワークシート	
学習指導要領の指導事項	A表現 (2) 漢字の書 イ 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技能を習得すること。 ウ 字形の構成を理解し、全体の構成を工夫すること。 B鑑賞 ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。 エ 漢字の書体の変遷、仮名の成立等を理解すること。	
題材の評価規準	年間指導計画を参照	
時	学習内容【評価方法】	具体的評価規準
1	○基本的な用筆法を理解する。【机間指導】	<ul style="list-style-type: none"> 用筆法を理解しようとしている。関① 鑑賞を通して、文字の表情や特徴について理解しようとしている。鑑①
2	○九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑を鑑賞し、特徴について学習する。【ワークシート】	
3	○用筆上の共通点や相違点を見つけ出し、比較する。【机間指導】	<ul style="list-style-type: none"> 古典における表現技法の基礎・基本を身に付けようとしている。関② 古典の特徴を生かして表現する技能を身に付け表している。技①
4	○字形について整理し、試書する。【作品】	
5	○双方の特徴を再度確認し、清書する。【作品】	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書体の変遷等に関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。関③ 書表現の諸要素を理解し、字形や全体の構成を工夫している。
6	○自己の作品を鑑賞し、自己評価する。【ワークシート】	

		構①
7	○双方の古典から、気づいたことを各自でまとめる。【ワークシート】	・創造的な書表現をするために、全体の構成などの表現の技能を身に付けている。 技②
8	○他者の作品を鑑賞し、批評を行う。【観察・ワークシート】	・鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。 鑑②

イ 評価の実際

(ア) 考え方

この単元の場合、具体的評価規準を合計8つ設定しており、ワークシートや自己評価、制作した作品などの取組状況を、「A」、「B」、「C」の3段階で評価する。これをもとに、最終的に単元の学習状況について総括し、4つの観点についてまとめる。

(イ) 評価方法の具体例

ここでは、第3・4時の学習活動「書への関心・意欲・態度」**関②**及び「創造的な書表現の技能」**技①**の評価例について取り上げる。第3・4時では、九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の共通する用筆法や相違点を的確に把握でき、古典の特徴を踏まえ試書をする学習活動である。そのため、第1・2時では活動を充実させる目的で基本的な用筆法を学習していることが前提になる。

《ワークシート活用例》

<p>自己評価</p> <p>・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の特徴を理解することができたか。</p> <p>5・4・3・2・1</p> <p>・古典の特徴を踏まえて、試書することができたか。</p> <p>5・4・3・2・1</p>	<p>【相違点】</p> <p>□字形は、「一」にして、線は、柔らかく伸びやかに書く。</p> <p>□横画の起筆は、「一」筆を置いて、しだいに太く、曲線的に書く。</p> <p>□主になる点画は長く伸ばして書く。</p> <p>C 双方の共通点・相違点をまとめてみよう。</p> <p>【共通点】</p>		<p>A 「九成宮醴泉銘」の特徴をまとめよう</p> <p>□字形は、「一」にして線は、直線的に書く。</p> <p>□横画の起筆、収筆は、切れ味「一」する。</p> <p>□縦横の点画は、それぞれ等間隔に書く【間架結構法】</p> <p>□筆を置いた後は「一」に運筆する。</p> <p>B 「孔子廟堂碑」の特徴をまとめてみよう</p>	
--	---	--	---	--

上記のワークシートに、教科書を参考に適切に書き込むことができた場合は、「書への関心・意欲・態度」**関②**については、「おおむね満足できる」状況（B）と判断し、更に共通点・相違点をまとめあげ整理することができている場合は、「十分満足できる」状況（A）と判断する。また、意欲的な取り組みに課題を生じている場合は、「努力を要する」状況（C）と判断するが、具体的な支援の手立てとしては、再度分かりやすく説明するなど等の適切な助言が必要である。更に、「創造的な書表現の技能」**技①**については、双方の古典を踏まえ背勢・向勢の結体を理解し表現することができた場合は「B」と判断する。加えて、運筆の速度・墨量の変化等を盛り込むことができた場合は「A」と判断する。ワークシートで整理した要素がない場合は「C」と判断するが、具体的な手立てとして、指導者側での模範揮毫や、手を取って一緒に書くなど特徴について気付かせる助言が必要となる。

(ウ) 総括

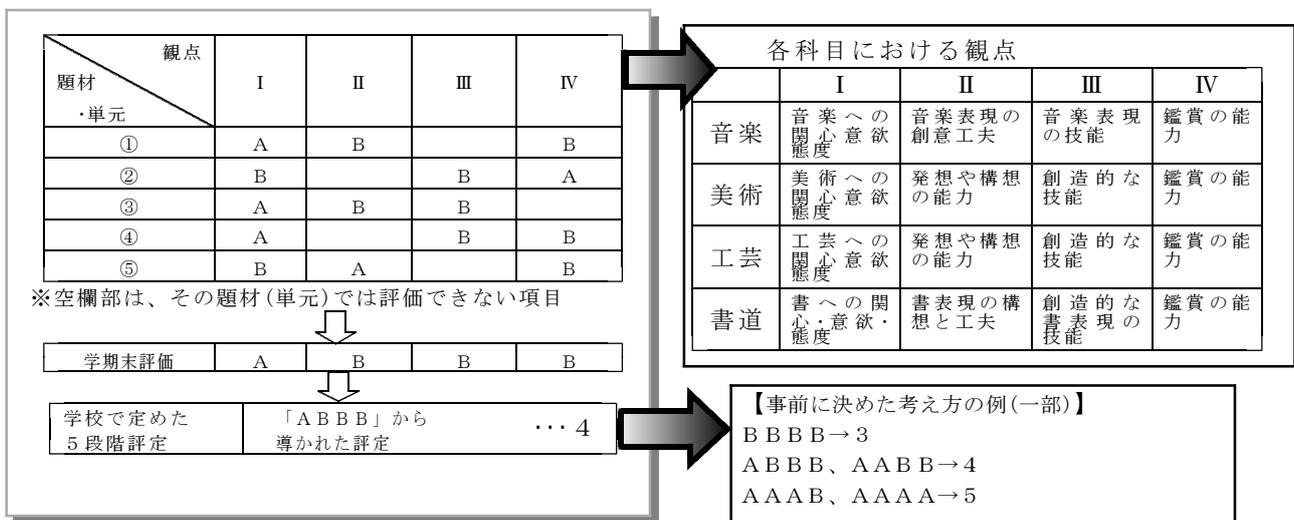
最後に、この題材における生徒の学習状況を観点別に総括する。1つの観点に複数の評価規準を設けた場合は、これを平均化して総括することができる。その際、学習のね

らいや時間数等に応じて、特定の評価規準に重み付けをすることや、「A」、「B」が同数ならば、「A」とするなど、あらかじめ評価に関わる具体的な判断方法を十分に考慮して設定し、計画的に総括することが重要である。

番号	氏名	書への関心・意欲・態度				書表現の構想と工夫		創造的な書表現の技能			鑑賞の能力		
		関①	関②	関③	総括	構①	総括	技①	技②	総括	鑑①	鑑②	総括
1	****	A	A	A	A	B	B	A	B	A	B	C	B
2	○○○○	B	C	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B
3	△△△△	C	C	C	C	B	B	C	C	C	A	B	A
4	□□□□	A	B	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A

5 学期末及び学年末の評価への総括

＜題材ごとの観点別学習状況の評価から学期末評価を総括する方法の例＞



生徒の学習の実現状況を各科目の目標に照らして分析的にとらえるためには、目標に準拠した学習評価により観点別学習状況の評価を行うことが適している。評定は学習の実現状況を総括的に評価するものであるが、観点別学習状況の評価はその評定を行うための基本的な要素となる。

評定への総括の場面は、学期末や学年末に行われる。観点別学習状況の評価の結果を「A」、「B」、「C」(又は「A」、「B」、「C」を数値で表したもの)の組合せに基づいて総括し、「A」～「C」の組合せで学期末評価を「A」、「B」、「C」のどの評価にするか決める。例えば、「A B A A B」なら「A」と総括する。その組み合わせ(又は「A」、「B」、「C」を数値で表したもの)に基づいて、評定を算出する。

なお、学期末や学年末の評価の仕方、観点別学習状況の評価の組合せからどのように評定するかなど、評価の仕方、評定の算出方法に関して、あらかじめ各学校で事前に考え方を決めておき、各観点の組合せから適切に評価されたものを、評定に反映する必要がある。

その際、単に評価するだけで終わりではなく、常にこの結果の背景にある生徒の具体的な学習の実現状況を適切に捉え、後の授業改善に生かす視点も重視し、指導の在り方についても工夫改善するなど「学習指導と評価の一体化」(P D C Aサイクル)を図ることが大切である。